予想しており、それぞれ30億円、4億5000万円、4億5000万円上乗せした。

は増え、レベルも向上。本業でのコスト削減や生産性向上など、数値が目に見えて改善されてきた。西村社長は「成果を事業所の運営に直接つなげていくことで、想定以上の効果を出せればいいと考えている」と話した。

（谷本博）

IATAと電子化協定

阪急阪神エクスプレス（岡藤正策社長、大阪市北区）は13日、国際航空運送協会（IATA）と、マスターAWB（航空貨物運送状）の電子化（ペーパーレス化）に関する包括協定を締結した、と発表した。今後、全ての協定参加航空会社との間で電子化に関する個別契約が不要となる。

（長谷川美香）

品質

3PL・静脈物流を拡充

ま高止まりが続く
する会社も出るだ
軽油引取税の旧暫
の問題はまったく
、自助努力で対応
しかない。
環境対策につい
の無い安全な会社
のは当然として、
会に優しい運送会
なければならな
員の意識高揚と実
めていく。
5トン車以上への全
ジタルタコグラフ
はじめ、ドライブ
ダーも順次導入中
全、省エネ対策を
していきたい。輸送
は経営の根幹だ。

――今後の営業戦略は。

メーンの特積輸送を充実させていくのはもちろん、物流センターでの業務受託などのサードパーティー・ロジスティクス（3PL）、倉庫保管業、引越事業、更に静脈物流を強化・拡大していく。

そのためにも安全輸送と高い品質が不可欠で、社員の質が会社の品質につながる。施設、人員、車両、安全機器などへの投資を続け、教育研修・育成にも力を入れる。

また、品質維持には適正運賃収受が重要となる。適正な運賃をいただき、高品質なサービスを提供し、荷主の期待に応えていくとともに社員の満足度も高めていく。そういう好循環の経営をしていきたい。

文・写真＝大津幾多郎

年3月設立。貨物自動車運送事業、貨物利用運送事業、
店業、通関業、産業廃棄物収集運搬業などの物流事業の
ービス・データベースサービスの提供、コンピュータによ
エアの開発・販売なども手掛ける。連結売上高391億
益8億9000万円（2013年3月期実績）。

創業90周年記念し再現

川崎陸送

レトロトラック披露

川崎陸送（樋口恵一社長、東京都港区）は創業90周年を迎えるに当たって、昭和30年代に運行していたボンネット型の保冷車を復刻し、レトロトラックとして、2月18日に完成披露した。事業用ナンバーを取得し、公道での走行も可能で、荷主のキャンペーンなど広く活用していく。

当時の車両は、創業時（大正13年＝1924年）から取引があった明治製菓の主力商品であるチョコレートを、同社川崎工場（川崎区幸区）から夏場でも溶けずに配送する目的で、62年（昭和37年）型のいすゞ自動車、型式TD161を改造して製作。当時は冷凍機を荷室に搭載できなかったため、室内に断熱材を施し、ドライアイスを敷き詰めて運んだという。

この車両が完成した際に撮影した写真が3枚残されていたことから、90周年事業として復刻することを決めた。改めて設計図を制作し、種車を購入。レプリカ車両の製作を手掛けるウイング（今井一男社長、千葉市若葉区）に依頼し、型取りから成型、配色、ロゴに至るまで検討を重ね、1年かけて完成した。

製作に当たっては①外観を当時の車両とそっくりに仕上げる②窒素酸化物（NOx）特定地域内を走行できる――が最低限のミッション で、ベースとなる車両は69年型のいすゞのボンネット型トラックを使用。エンジンとミッションは、2003年式のいすゞエルフに搭載されたものをそのまま使った。見た目はレトロだが中身は現役の車両で、見通しが悪いためバックアイカメラとバックソナー（後方探知機）を前方にも装備した。

樋口社長は「創業90周年に面白くかつ運送事業者らしいことをしたいと思い、走行可能なレトロトラックの再現を思い立った。イベントなどにも活用していきたい」と、動機・活用方法を述べた。

また、記念事業では「社史よりももっと多くの人に当社の歴史を知ってもらいたい」（樋口氏）として、90周年アニバーサリーホームページを21日から公開。90年の歴史や創業者の樋口由恵氏の人となり、写真館などを1年間にわたり毎月更新し、順次紹介していく。

（田中信也）

事業用ナンバーを取得し、公道での走行が可能